

藤吉郎ハ駈倚るがら。鎗投棄つ即碩ふ。両脚捨て斬僵し。即時
 伊藤と執て擁へ。鏝の隙虚と鏑徹まふ。伊藤ハきとち豪傑なれ
 ば。蒙癩るがらも高吉が。腕挫搦と刎鬪し。漸く下みおとされど
 も。落馬せし响太刀小刀の四五間那方小脱零て。打べき刃の近み
 無ければ。拳と握てもがきまがら。孰誰あれ大膽も我と観て
 落馬ハさせしぞ。姓名唱れと罵ると。藤吉郎ハ鼻頭笑我と毆
 んと做る敵る。命と惜すは首搦せと。不敵の詞ハ日向守増と
 怒てカと突り。拗殺してさえんむと。壓捲ると為さうし。卻合藤吉
 郎ハ利足揚て。日向守が脛と。礮と蹴るがら身と退が。伊藤ハ前ハ
 俯伏ふ。喉仆と得らうと起揚り。終み首とぞ毆墮せ。現目覚
 し。今天初陣の功名と。萬夫も怖る日向守が。首と毆る捲さる。

山王擁護の英雄ふと。和光の人とぞ知られる。那方亦亦湍踏の老
 黨。川の中流ハ在けるが。這體と見て驚顛る。三人齊しく取
 返す。藤吉郎と遁さうと。前後小單で闘さう。恁て松下が陣中
 へ。藤吉郎が兵糧と。擔出と响経れども。帰らざることを戦場ハ
 潜魁あて打果やせん。不辨の焔と嘉兵衛之細。伴還らんと只
 卓騎。堤の這地ハ馳着見と。藤吉郎ハ三人と。前後小承て大
 水小あり。趕つ越る戦小這方。之細鏑と綽整し。敵一人と鏑
 伏るれば。高吉郎も踏蹴い。二人の敵と斬損し。伊藤が首と取
 出。嘉兵衛之細見せけるを。鞠すまふ感嘆す。始終と
 听て歡猪進。先参大将の實檢ふ。備んめと打伴起本陣へこそ
 退返も。然程小今川治部大輔義元ハ。魁隊の軍勝利と得つ